

ユニスタ通信

ハロウィンは、どうしてかぼちゃを飾るの？

ハロウィンはなぜ、かぼちゃを怖い顔にくりぬくのか？そもそもどうしてかぼちゃを使うのか？知っていますか？

ハロウィンの起源は、ヨーロッパのケルト人の収穫祭です。秋の豊作を願うお祭りですね。クリスマスのようなキリスト教の行事ではありません。ケルト人の習わしでは、11月1日が新しい年の始まりとされているので、10月31日は収穫祭であると同時に、あの世とこの世の境が無くなる日であると考えられていたそうです。それで、善い死者の霊と悪霊がうろろろするので、悪霊に悪戯されないように魔除けにたき火を焚き、怖い仮面をつけ、仮装して悪霊たちの目をくらまし、自分たちに乗り移らないようにしたそうです。でも、もともとはカブをくりぬいて仮面を作っていたのが、ヨーロッパからアメリカ大陸に人々が移住していった時に、当時のアメリカで多く収穫されていたかぼちゃに代わってしまいました。だから現在でもヨーロッパのスコットランドではカブを使います。

ところで皆さんもテレビなどで見たことあると思いますが、海外のハロウィンでは、なぜ、かぼちゃをくりぬいて、中に火を灯すのでしょうか？

それは、ジャック・オ・ランタン(Jack-o'-Lantern)の伝説というのが由来となっています。昔、ジャックというお酒好きのろくでなしの男がいて、あるハロウィンの夜に魂を取りに来た悪霊に遭遇します。しかし悪霊をだまして、10年間はジャックの魂を取らないという約束をさせて追い払います。そしてもちろん10年後に再び悪霊はジャックのところにやってきますが、またもだまして、今度はジャックの魂を永遠に取らないと約束させて追い払います。やがて年を取ったジャックは死んでしまいますが、今までの行ないが悪かったので、天国に入れてもらえません。困ったジャックは地獄へ向かったのですが、そこには例の悪霊がいて、「お前の魂は永遠に取らない」という約束だから、地獄に入れてやらないと言われてしまいます。かくして天国にも地獄にも行けなくなったジャックは、落ちていたカブをくりぬいて、その中に悪霊にもらった火を灯してひとり寂しく、この世とあの世をさまよい歩くことになったという伝説です。

ケルト人の収穫祭の慣習とジャック・オ・ランタンの伝説が合体して、皆さんがよく見るハロウィンの怖いかぼちゃのお面の形になったというわけです。なお、ランタンは皆さんもアウトドアで使うあの、ランタン(lantern)のことです。



早めの対策が肝心…インフルエンザ
 十月も終わりに近づくと、屋間は少し汗ばんでも、日が暮れるとめっきり寒くなりましたね。体調管理には気を付けましょう。それと受験生は特にですが、インフルエンザの予防接種はお早めに！

Unique Study① pumpkin vs squash

アメリカでパンプキン(pumpkin)と呼ばれているのはオレンジ色の皮のものだけ。日本でよく食べられている緑色の皮のものはスクウォッシュ(squash)と呼ばれ、ハロウィンには使われません。

Unique Study② 頭のよくなる食べ物

- ・イワシ (DHA、ナイアシン)
- ・ウナギ (DHA)
- ・かぼちゃ (ビタミン B1)
- ・牛肉 (たんぱく質)
- ・鶏肉 (たんぱく質)
- ・ゴマ (ゴマリグナン)
- ・サンマ (DHA)
- ・ソバ (ビタミン B1、ソバポリフェノール)



参考文献「食べ物が効く」監修：田村哲彦 家の光協会
 「からだによく効く食べもの辞典」監修：三浦理代 池田書店

ハロウィンに起きた悲惨な事件

1992年10月17日の夜、アメリカ合衆国ルイジアナ州に交換留学していた16歳の日本人高校生が、ハロウィンの衣裳を着てパーティに出かけましたが、訪問する家を間違え、違う家の敷地に入りました。住人は不法侵入者と判断し、銃を向け「Freeze!(フリーズ、動くな!)の意味」と警告しました。しかし高校生は警告を受けた場合の対処のルールを知らず、立ち止まらずそのまま住人の方に歩み続けたため、約2.5mの至近距離で撃たれました。これからは英語の学習も大切ですが、それに加えて留学・出張や旅行で訪問する国でトラブルに巻き込まれた場合の対処の仕方も知っておくことも大事です。



◇お知らせ◇

まもなく冬期講習のご案内をお子様にお渡しします。
 得意科目にさらに自信をつけ、不得意科目にもみずから取り組む心を育てましょう。
 個人面談は随時行なっております。ご希望の方は電話にて承っております。

ユニスタディ 泥谷(ひじや) ☎042-420-1433

～記事のリクエストはご遠慮なく月例連絡票の「保護者返信欄」にお書き下さい。～